

実施報告書

山形大学医学部医学科6年 飯島岳洋

・派遣先大学：ラトビア大学

・派遣期間：2016年2月12日（金）～2月23日（火）

・日本語教室での指導内容

初級クラス、中級クラスに分かれて月曜日から金曜日の夕方から2クラスを指導した。初級クラスでは、各々のレベルはバラバラであったものの、ローマ字で読みがなをふると声に出して発音しやすいようであった。内容としては、教室にあるものを英語で挙げてもらい、それを日本語にする、日本の地理を勉強しながら、それぞれの地方で有名な食べ物・文化を指導、食べ物の名前を学び、好きな食べ物は何か聞く練習、体の部位を学び、どこが痛いかを聞く練習などを行った。中級クラスでは極力英語は使わず、指導する側もなるべく日本語で話し、グループワーク中心で指導した。その内容としては、1～2分程度でペアの相方を紹介する他己紹介、日本の地理、人の性格を表す形容詞を指導した。ペアで寸劇も作ってもらい、客と店員の役をそれぞれで演じ、クレームをつける客とそれに対応する店員、また商品を買いに来た客とそれをうる店員のやりとりを練習した。

・日本語教室以外での現地での交流活動

毎日現地の学生とご飯を食べに出かけた。特に私は2回目ということもあり、1度目に出会った学生で、時間の都合が合わず現在のクラスに参加できない友人とも久しぶりに再会し、食事を共にし、戦争博物館への見学など、楽しく過ごすことができた。また、今回初めて仲良くなった現地の学生とも出かける機会もあった。首都のリガから電車で1時間ほどのSiguldaという小さい街と一緒に訪れ、地元の人が行っている春を迎える祭りに参加させてもらった。若い人からお年寄りまで様々な人が参加しており、私も現地の人と一緒に踊り、またそこで振る舞われる伝統的な料理を食べた。地元の学生が「ラトビアを知りたいのであれば、小さい街に行ったほうがその特色を強く感じることができる」と言っていたこともあり、大変機会に恵まれた。また、その様子が地元のホームページにも掲載され、URLは以下の通りである。



<http://www.turaida-muzejs.lv/galerijas/pasakumu-fotogalerijas/pasakumi-2016/?album=18&gallery=259>

・プログラムに参加した感想

今回が2回目のラトビアへの派遣となった。前回と今回の大きな違いは、日本語クラスの人数の違い、またリガ以外の街へ行ったことである。前者について、私がラトビアに到着した当初は1日2クラスで、1クラス約20人に対して指導することは骨が折れるものであった。1回目の派遣の際は1日1クラスでこちら側の学生も数人いたので、負担はかなり違ったように思う。途中から来てくれたもう一人の山形大学生の助けもあり、それ以降は一人の時に比べかなりスムーズに進めることができたと感じた。日本語の授業を無料で受けることができるということが生徒間の噂話で広がっているようであり、参加者は多いように思う。また、学校や仕事が終わった後にわざわざ午後8時まで授業に参加している人も多いため、こちら側もそのニーズに応えるべく、しっかりと授業のための用意を事前にする必要があった。後者について、初めてリガ以外の他の街を訪れた。雪が降りしきる休日だったが、地元の生徒の誘いもあり、春を迎える伝統的な祭りに一緒に参加し、その地域に伝わる伝統を学ぶことができた。私は地元の人でも何でもないので、それでもその地域の人には暖かく迎え入れてくださり、人の優しさを改めて確認する機会となった。とても実りの多い派遣プログラムになったと思う。

・自分の目標の達成度や努力した経緯など

前回の経験からある程度現地での生活が予想できていたため、それほど苦労することは無かったように思う。今回の派遣は冬ということもあり、天候を心配していたが、幸い私が滞在している間は大きく天候も崩れることもなく、快晴の日もあったので運が良かったと感じた。今回一番気をつけた点としては、盗難、及び犯罪に巻き込まれないことである。普段日本で生活しているため感覚が鈍ってしまっているところもあるが、決して日本ほど安全とは言いきれない様子ではあった。夜遅くに出歩くことを避け、また携帯電話や財布などの貴重品は肌身離さず持ち歩くことを心がけた。トラブルに巻き込まれず、無事帰国できたので良かった。

・今後の展望

私は今年度をもって山形大学を卒業するが、この学生大使派遣プログラムには合計3回お世話になった。普段から英語に触れる環境を多くしようと心がけてきたので、外国に行った時にそれほどコミュニケーションに困ることはなかった。しかし、これから社会人として働くにあたり、今以上に上を目指したいと思うので、長い時間がかかるかもしれないが、しっかり精進していきたいと思



った。このプログラムの目的である、(1)自分自身や日本人としての知覚力、(2)相手や異文化への理解力、(3)臨機応変に創意工夫できる適応力、(4)英語力を含めたコミュニケーション能力、以上の4つのスキルはこのプログラムを通して相当磨かれたと感じた。これからの私の人生で、このプログラムを通して身につけたスキルが直接的ではいかもしれないが、どこかで役に立つ日が来るとだろうと思う。最後に私にこのプログラムに参加するチャンスを3回も下さった山形大学の関係者の皆様、また一緒に滞在した山形大学の学生、そして旅行では味わうことのできない貴重な経験をプレゼントしてくれた、派遣プログラムで出会った現地の人達に感謝したい。